

## イタイイタイ病の教訓を海外へ発信します。

イタイイタイ病資料館では海外からの来館者を積極的に受け入れております。

10月9日（木）には、インドネシア教育振興会から11名が来館され、英語版のガイダンス映像を視聴した後、インドネシア語通訳を通して資料館の展示解説、青木有明さんの語り部講話を聴講されました。来館された方々は、インドネシアで環境教育発展のために活躍されている方々です。資料館では、イタイイタイ病の被害に苦しむ患者やその家族の様子、そしてその克服の歴史について理解を深められました。

また、10月21日（火）には、（一財）海外産業人材育成協会＜HIDA＞の研修でラオスの鉱山関係者21名が来館されました。この研修は、鉱害を防止することの重要性を学ぶために行われているもので、資料館への見学に先立ち神岡鉱山も見学されました。こちらは、ラオス語の通訳を通して、展示解説と高木良信さんの語り部を聴講されました。語り部講話後の質問では、農地のカドミウム汚染の状況や復元の方法、環境への影響、今日の神通川の水質など、詳しい内容にまで踏み込んで質問されていました。

資料館では、今後も海外の来館者を積極的に受け入れることにより、イタイイタイ病の被害とその克服の歴史について海外に向けて発信していきたいと考えています。



語り部講話の様子

＜インドネシア教育振興会＞



展示解説の様子

＜（一財）海外産業人材育成協会＞

## 子どもたちの理解が深まっています。

（課外学習サポート事業の理解度調査中間報告）

今年度も子供たち（学生含む）の資料館への来館を支援する課外学習サポート事業を実施し、無料送迎バスを利用してこれまでに12校・650名＜小学校9校、中学校2校、大学1校＞が来館されました。この事業では、利用された子どもたち

にアンケートを実施し、子どもたちのイタイイタイ病の理解度を①発生した時期②発生した地域③患者の症状や特徴④原因物質の4項目を中心に調査させていただいております。資料館では中間報告として、上半期（4月から9月）に来館された学校の調査結果についてご紹介しています。

調査の結果、イタイイタイ病について知らなかった子供たちの概ね9割から、資料館での学習を通して理解が深まったという回答を得ました。

このことから資料館での学習がイタイイタイ病の理解に着実に結びついていることを確認していますが、年度末の調査報告に向け、来館した子供たち全員の理解がさらに深まるよう努めていきたいと考えております。

詳しい学習効果の状況や展示室のテーマごとの分野についての調査結果については、資料館掲示板やホームページなどに掲載しています。是非ご覧ください。

「資料館ホームページ」（URL <http://itaitai-dis.jp>）



